

# 明治学院大学と大槌町 10年の軌跡

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の復興支援活動に尽力いただいた明治学院大学の学生たち。吉里吉里地区で立ち上げた「Do for Smile@東日本プロジェクト」では、多くの皆さんの笑顔が咲き誇りました。



▲明治学院大学ボランティアセンターの学生たちと「吉里吉里カルタ」で交流を楽しむ地域の子どもたち



◀2月21日(水)、これまでの活動に感謝を込めて、明治学院大学の村由玲音学長(写真右)に感謝状を贈りました。

## その活動は「笑顔のため」 Do for Smile

東日本大震災津波が発生した3月11日の約1カ月後、明治学院大学ボランティアセンターから学生たちが被災地に訪れ、学校の再開支援や支援物資の整理などを行なったのが、この活動の始まり。平成24年3月28日には、継続的な復興支援活動と包括的な連携のもと、文化・産業・教育などの分野で相互に協力し合うため、「明治学院大学と大槌町との協働連携に関する基本協定」を締結。後に「Do for Smile@東日本プロジェクト」と称された数多くの支援活動は、10年間にわたり、大学生主体で続けられました。

## 遊び場と学習支援

震災津波によって遊び場を失ってしまった子どもたちに、安全に遊べる空間を提供するため始めた活動が「わんぱく広場」。この活動は、月1回開催され、ミサンガ作りやスライム作り、スポーツなどを通して、子どもたちの笑顔と成長を見守りました。夏休みには、町内中学生の学習をサポートしながら、勉強の合間にはスイカ割りやサッカーなどで触れ合い、大学生たちも地域の子どもたちとの交流を楽しんできました。



震災直後、学校再開のため被災した小学校から机やイスを運び出す大学生たち

## 吉里吉里の文化を後世に

吉里吉里地区の言葉などの文化を町の誇りとして保存し、地域の内外に発信するため「吉里吉里の言葉と文化アーカイブ活動」が進められました。これは「吉里吉里語辞典」の著者・関谷徳夫さんの「吉里吉里語を後世に伝えたい」という思いを受けて始まったもので、震災津波で少なくなった吉里吉里語辞典の再出版作業に協力しました。また、郷土芸能や郷土料理などの文化を保存する活動なども幅広く行いました。



これらの活動をきっかけとして作られた「吉里吉里カルタ」は、吉里吉里地区の文化や生活を楽しみながら知ってもらうものとして、吉里吉里地区の各所に置かれています。

明治学院大学ボランティアセンターの学生たちは、10年もの歳月をかけて、住民との繋がりを深めました。町と大学が結んだ協定は、令和6年3月31日で期間満了となりましたが、これまで築き上げた吉里吉里住民と大学生たちとの絆は、吉里吉里地区の文化と歴史の新たな1ページとして、成長した子どもたちの笑顔とともに地域に息づいています。



わんぱく広場に集まってくれたみんなと一緒に記念撮影

## 10年の軌跡には 多くの笑顔が咲き誇る

## 届いたメッセージ

### 大槌町立吉里吉里学園PTA会長 芳賀新さん

明治学院大学ボランティアセンターの学生の皆さんには、震災直後から、吉里吉里のお祭りや運動会など息の長い支援活動を続けていただきました。吉里吉里地区の住民は、学生の皆さんの笑顔に救われたと思います。皆さんの今後の活躍を期待しています。

### 明治学院大学法学部法律学科 平成25年卒業生 笠井ゆりさん

どれ程の月日が過ぎ去って、立場や場所が変わっても、私たちが大槌町の皆さんを忘れることは決してありません。言葉にできない苦しみの中で、私たちにかけてくださった言葉や思いを胸に、一緒に走り続けます。